

「教科指導法」に関する研究

柴田学園大学 こども発達学科

花田 裕

TEL 0172-33-2289

FAX 0172-33-2486

e-mail y-hanada@shibata.ac.jp

キーワード

学習観、理科教育法、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動）
タブレットPC、プログラミング教育、ふれあい塾

一般に授業は、児童・生徒観、指導観、教材観という学習観を考察し、本時の授業を構築することで、子ども達の「わかった・できた」という知識・技能、「どうして」という思考・判断・表現力、学びに向かう人間性等の向上が図られています。さらにこの学習観は、普通の授業における協働的・体験的な学びによって変容することが、状況的学習論で言われている。そこでこの二つの視点をもとに、教科指導方法について主に下記のような研究をしています。

【体験的な学びを視点として】

- 生活科の学習を生かした理科の教材開発
- 児童(生徒)が自らつくる、理科の実験・観察教材とメタ認知力について
- タブレットPCを活用したシミュレーション教材と知識・技能の定着について
- 論理的思考力をたかめるロボット教材を利用した授業方法について(プログラミング教育)

【協働的な学びを視点として】

- 思考ツールを活用したグループ学習と効果
～情報整理・分析を視点として～
- 協働的な学びの場としての学校図書館の可能性について
～総合的な学習の時間を視点として～

また本研究室は吉田研究室と共同し、親子のコミュニケーションを深める「ふれあい塾」を開催しています(2018～)。その中でロボット教材を活用したプログラミング学習、子ども自身で作る実験教材づくりを実施することで、研究の参考になる多くの意見を頂いています。

